

鳥取市在住の作曲家上萬雅洋が世に放つ待望の新作を初演！



作曲
上萬雅洋



指揮
米津俊広
東京音楽大学指揮科講師

管弦樂 鳥取市交響樂團

ドヴォルザーク／スラブ舞曲第1番 op46-1

上萬雅洋／交響曲第2番 ハ短調

「靈峰大山『DAISEN』～開山1300年記念～」(初演)

Brahms / Symphonie No. 2 in D major, Op. 73



2019年10月14日 月・祝 とりぎん文化会館 梨花ホール
14:00 開演 (13:30 開場)

全自由席：一般 1,500円 (当日 2,000円) 高校生以下 500円 (当日 1,000円)

未就学児の入場はご遠慮ください。※無料託児サービス、または親子観覧席をご利用ください。

主催：鳥取市交響樂團

後援：鳥取市教育委員会、鳥取市文化団体協議会、朝日新聞鳥取総局、
山陰中央新報社、産経新聞鳥取支局、新日本海新聞社、
中国新聞鳥取支局、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、
TSK山陰中央テレビ、BSS山陰放送、日本海テレビ、
いなばびよんびよんネット、日本海ケーブルネットワーク

【プレイガイド】 鳥取市民会館、とりぎん文化会館、鳥取市文化センター、アコヤ楽器店、トスク本店
鳥取大丸、今井書店（吉成店、湖山店）、三朝バイオリン美術館、倉吉未来中心

【お問い合わせ】 鳥取市交響樂團事務局長 井上拓也
電話 090-4807-1339 takuinou@gmail.com

【託児サービス、親子観覧席の申込み】 前日までに090-5432-6696(木田)まで
※定員になり次第締め切ります。

作曲家上萬雅洋さんに 作品の聴きどころを聞きました。

——上萬さんにとって、交響曲を書くこととは？

小さい頃からの夢でした。交響曲は音楽の中でも最高峰の創作物だと思っています。現代において交響曲を発表するということは大変困難なことです。しかし、書き、発表しなければ過去の偉大な作曲家と同じ土俵に立つことさえできません。私にとって交響曲を書くことは現代の聴衆、作曲家、演奏家、そして音楽史への挑戦状でもあるのです。

——5年ぶりの新しい交響曲となりますが、作曲で大変だったことがありますか？

今回の交響曲は、緻密さと大胆さとユーモアが40分の中にぎっしり詰まっています。そして大規模なオーケストレーションは前作を遥かにしのぐほどで、楽器が足りないな

——作曲家としての夢、今後やりたいことを教えてください。

私の尊敬する師匠である新倉健氏はオペラ「ボラーノの広場」という超大作を作られました。県外でも上演されるほどの素晴らしい作品です。私も多くの人に愛される作品を作りたいと思っています。おそらく交響曲第3番を書く事になるでしょうし、ぜひとも長調作品を書きたいと思っています。



ドヴォルザーク／スラブ舞曲第1番

スラブ舞曲はチェコの国民的作曲家ドヴォルザークの16曲からなる舞曲集。もとはピアノ連弾のために書かれたが、作曲者自身によって全曲が管弦楽に編曲された。第1番は、「フリアント」という速い3拍子の民俗舞曲で、熱狂的なリズム感と郷愁を生み出している。

上萬雅洋／交響曲第2番 ハ短調 「靈峰大山『DAISEN』～開山1300年記念～」

2013年、交響曲第1番の初演後すぐに着手され、2018年に完成。箏の調弦を基本にした五音音階と七度の跳躍を特徴とし、古典的な交響曲の形式の中に現代音楽の手法を取り入れている。自然の雄大さや神秘を感じさせる第1楽章、和風な旋律と力強いリズム、現代技法をちりばめた第2楽章、静的で異次元の世界へ引き込まれるかのような旋律の第3楽章を経て、力感溢れる終楽章で圧巻のラストを迎える。「私は交響曲において「大山」を捉える際に、見た目の美しさ、雄大さなど表面的なことは一切頭に入れず、精神的内面を捉えようと試みた。それは、多くの神話が物語っているように、山に対して畏敬の念や深い真理を感じ取るのだと思う。」と作曲者は述べている。

ブラームス／交響曲第2番ニ長調

ブラームスは、20年もの歳月をかけて『交響曲第1番』を完成させたが、その翌年の1877年にアルプスの山々に囲まれたオーストリアの避暑地ベルチャッハでわずか4カ月で『交響曲第2番』を書き上げた。明るく牧歌的で旋律も親しみやすいため、ブラームスの「田園交響曲」と呼ばれることもある。ブラームスの第1、第2交響曲が、彼が敬愛するベートーヴェンの「運命」と「田園」のような関係にあることはとても興味深い。曲は4楽章からなり、自由でのびやかな雰囲気を持っているが、ハーモニーや各楽器の絡み合いなどブラームスらしい充実した作曲技法が味わえる。牧歌的な第1主題と哀愁に満ちた第2主題がたっぷりと歌われる第1楽章、孤独な内面を映し出すような第2楽章、軽快で民俗舞曲風な第3楽章の後、明るく輝きに満ちた終楽章で圧倒的なクライマックスを作り上げる。

——初演で来場者に一番聞いてもらいたいことは？

この曲には副題がありますが、「大山」を思い浮かべながらだつたり、イメージなしで聴いたり、感じてもらえばと思うままであります。私の曲をどう料理してくださるか、指揮の米津先生においても演奏する鳥取市交響楽団においても重荷を背負わせてしまつたかもしれないが、1番の聴きどころであることは間違いないでしょう。



作曲
上萬雅洋

1970年鳥取市(旧青谷町)生まれ。オーケストラ、室内楽、ミュージカル、和楽器、吹奏楽、合唱等の作曲および編曲を多数手がける。演奏家からの信頼も厚く、国内のみならずヨーロッパでもその作品は高く評価されている。地元においてはミュージカル作品に多く関わり、その魅力ある作品群は多くの支持を得ている。作編曲は独学によるものだったが、2009年より鳥取大学大学院にて新倉健氏に師事。大学院修了時に「交響曲第1番ニ短調」を書き上げ、2013年、鳥取市交響楽団により初演され好評を得る。現在、鳥取市交響楽団長、作曲工房「パパゲーノ」代表など。



指揮
米津俊広

1972年愛知県生まれ。東京音楽大学在学中より指揮活動を開始。日本各地のオーケストラ、オペラ等の客演を重ね、2006年、スロヴェニア・フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会「モーツアルトプログラム」を指揮してデビュー。2008年、第28回マスター・プレイヤーズ国際音楽コンクール(ヴェネツィア)の指揮部門にて、最高位並びにブルー・ワルター賞を受賞。2009年、イタリア、トリエスティで行われた、「第1回ヴィクトル・デ・サバ国際指揮者コンクール」にてファイナリスト3名に選ばれた。

現在東京音楽大学講師。平成19年度、文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。



鳥取県東部で活動するアマチュアオーケストラ。1976年に発足。年1回の定期演奏会のほか、「県民による第九公演」のオーケストラ演奏も担う。地域のオーケストラとして、鳥取在住のソリスト・音楽家との共演や、地域の音楽イベントへの出演等にも積極的に取り組んでいる。